

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091100042
法人名	株式会社 サニーライフ
事業所名	グループホーム大池 (ユニット名 Aユニット・Bユニット)
所在地	福岡県福岡市南区寺塚2丁目8-10
自己評価作成日	平成23年3月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・「寛ぎの中でゆったり楽しくその人らしく」の理念のもと、ひとりひとりの思いや希望をかなえられるよう努力している。
 ・家庭的な雰囲気や居心地のよい環境作りや心掛けています。
 ・ボランティアの方も定着しており、さらに地域の方との交流機会を増やしたいと努めています。
 ・民謡教室で習った民謡を発表会で披露するなど利用者の意欲づくりや心がけている。
 ・ホームでの行事や外出等楽しめる機会を多く取り入れており、利用者や家族の方々も楽しみにしている。
 ・1階のデイサービスの活動参加や利用者の方との交流ができる。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅前中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成23年4月20日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者がどのような状態であっても、人として今までやってきたことができるようにしたいという管理者の強い思いがあり、その人らしく、「一人ひとりの思いや希望は何だろう」と自身に問いかけてケアに努めている。ホーム内は笑いが絶えず、元気でアットホームな雰囲気がある。地域の一員として近隣住民と親交があり、公民館のさくら教室や町内の行事(バザー・餅つき)の声かけに参加したり、事業所内の毎月行われるそば打ち会や民謡教室等に多くのボランティアの方々を訪れている。民謡は八仙閣で発表会が開催されるほどである。このように事業所内行事や外出行事が多いのもホームの特徴である。今後も地域の方との交流をもっと増やしたいと積極的である。また職員の質の向上にも努めており、各種の委員会活動や研修による資料等沢山の書類が整理されている。今後も益々の発展が期待できる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域で安心した暮らしの継続、その人らしい生活ができることを目標としている。方針や目標を理解するために、業務前の理念の確認、業務やカンファレンスの中で、介護のあり方を理念と照らし合わせて考えながら、実践につなげている。	理念は職員間で事業所独自の理念を作っている。地域の中で、安心して生活ができるよう、常に理念が基本である事をスタッフ会議時に確認しており、理念に基づいたケアの実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に散歩や買い物に出かけたり、挨拶や会話をしている。公民館・町内行事・さくら教室・餅つき等に参加、地域ボランティアさんによる活動も定着し、近隣の方を誘ったりの取り組みをしている。	散歩時に、近隣の方が栽培した野菜や花等をいただくなど親交がある。地域の行事や公民館サークル活動に参加したり、多種によるボランティアの訪問活動が定着しており、地域との交流は日常的に行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方から、認知症や介護に関する相談などを受けている。また、在宅支援にも努めている。ヘルパー実習生の育成、地域やボランティアの方々へ認知症について理解をしていただくよう努めている。(認知症サポート養成講座開催)		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設の活動やサービスの実践を報告し、意見交換や評価を得ている。認知症の理解や地域の情報を得る機会となっている。その意見などを今後の取り組みに活かせるよう努めている。	2月に1回、第2生き生きセンター(包括支援センター)、区社協、民生委員、PTA会長、家族等の参加のもと開催している。外部評価報告やホームの活動内容、「認知症について」の話、地域の方からのボランティア支援等の情報や災害時の協力体制等の助言や意見等をサービス向上の取り組みに活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センター(南第2)・南区社協・福祉事務所職員などとの連携に取り組んでいる。また、南区のキャラバンメイト連絡会に参加。	区のキャラバンメイト連絡会に参加している。認知症サポート研修、介護保険の更新、生活保護に関すること、いじめのこと等で相談をしている。また実習生の受け入れを行っており、協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービスにおける禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会があり、勉強会など実施している。禁止となる具体的な行為も全職員に周知している。その方の特性を理解し、見守り声かけを徹底しひとりひとりの状態に合わせた援助に取り組んでいる。施錠については常に開錠して、自由に出入りできる環境である。	日中は施錠せず、自由に出入りできる。無断での外出時は職員がそと後ろから見守り同行している。身体拘束禁止委員会があり、内部研修を繰り返し行うことで全職員に周知している。また、高齢者虐待防止法等については、職員は外部研修に参加し、伝達研修を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修参加、勉強会やカンファレンスなどを実施し、高齢者虐待防止法について学んだり、問題提起して話し合ったりなどの取り組みがある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	できるだけ多くの職員が外部研修に参加して学ぶ機会を作っている。身近な事例を通して、制度を学ぶように取り組んでいる。家族には資料を提供して概要などを伝えている。	現在、成年後見制度を利用している利用者はいないが、本人・家族との契約時や家族会の時に説明を行っている。管理者や職員は外部研修に参加し、事例を交えて内部研修を行ったりして、職員全体で学ぶ取り組みを行っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をとって丁寧に説明し、同意を得ている。事例を挙げて詳しく説明し理解や納得を得るように努めている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	生活をする上での不安や不満、希望に関して定期的に聞いている。また日頃の言葉や態度から思いを察するよう努めている。小さな苦情も話し合い解決に向けて取り組み、茶話会や運営推進会議、家族会等で意見や要望を伝える機会を作っている。	年2回、家族会を開催して家族との交流を深める中で意見等も聴くことができている。また、普段の家族の訪問時も些細なことでも意見が言いやすい雰囲気作りをしている。家族の思いや意向の把握に努め、出された意見は職員間で話し合い、ケアの改善を行う取り組みをしている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議や勉強会、朝礼などの時や日頃からコミュニケーションを図り、運営に反映するようにしている。個人面談を行い、素直な意見などを話し合える機会を作っている。	管理者は、スタッフ会議や勉強会、朝礼等では話しやすく意見や提案等も出しやすい環境作りに努めている。利用者の生活時間と職員の勤務時間とのずれから職員の無駄な時間帯に気づいた職員から、勤務時間の変更の提案があり、話し合いによって改善をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者とは、常に情報交換を行ない、個々の職員の業務状況や日頃の努力や成果などを把握している。一人一人の個性を尊重し、意欲や向上心がもてるように、職場環境・条件の整備に努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	スタッフの募集、採用に関しては、何も制限をしていない。介護観や人柄を重視し意欲や向上心がもてるように、職場環境・条件の整備に努めている。	採用にあたって性別や年齢等を理由に排除することは無い。料理、絵手紙等の得意な方、また、各種委員会(身体拘束禁止・権利擁護・広報・教育等)を担当させて、職員一人ひとりの能力を発揮できるよう取り組みがなされている。また、外部研修等においても積極的に参加し、向上心を育てる取り組みもなされている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	日々、理念を踏まえて人権尊重や思いやりを意識した現場指導に努めている。カンファレンスや勉強会時、関連づけながら考えさせている。また、研修や講座にも参加している。参加したものは他職員に必ず伝言している。	日々、理念を踏まえ利用者の尊厳や言葉使い、プライバシー保護に努め、常にカンファレンスや事例を交え勉強会を行っている。外部研修に参加した職員は、伝達研修を行い、人権の啓発に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修計画を立て、受講に偏りがないように調整をしている。研修報告は勉強会や朝礼にて報告。報告書や研修資料は閲覧してもらっている。また、スタッフ会議で事例検討を通して学ぶ機会も作っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福岡県グループホーム協議会に参加している。近隣の事業所との交流や情報交換の場となり、介護実践に役立っている。地域の認知症ケアやサービスに関する情報を共有できている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用について相談があった時は、必ず本人に会って心身の状況や思いに向き合い、職員が本人に受け入れられるような関係作りに努めている。今までの生活様式があまり変化しないように努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでのご家族の苦労や経緯などについてゆっくりと聞くようにしている。思いを受け止め、話を聞くことで落ちついてもらい、次の段階につなげている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の思い、状況を確認し、相談支援を繰り返す中で信頼関係を築きながら、必要なサービスにつなげるようにしている。場合によっては、他事業者や医療機関などに相談しサービスにつなげている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は人生の先輩であるという考えを職員が共有している。利用者の方から励ましを受けたりする事も多く、互いに協働しながら生活している。本人の得意とすることが出来るような関わりや役割を持ってもらい、労いや感謝の思いを伝えている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の様子や職員の思いをきめ細かに伝えることで、家族と職員の思いが徐々に重なり、本人を支えていくための協力関係が築けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の活動に参加したり、生まれ育ったところへの外出など定期的に継続できるように努めている。馴染みの知人と交流したり、行きつけの美容室やサークルに出かけたりとご本人の活動を支援している	入居前より利用している公民館活動に職員同行で参加している。行きつけの美容室に一人でバスに乗って出かける方の乗車までの見守りをしたり、知人の訪問時の接待をしたりして、人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性について職員は共有できている。みんなで楽しく過ごす時間や気の合う同士で過ごせる場面作りなど職員が調整役となっている。利用者同士もお互い尊重しあう関係も見られる。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後も継続した関わりをもっていた。ご家族より紹介があったり、相談を受けたりすることもある。近くに来たといつて訪れることもある。今後も継続的な関わりを大切にしていきたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、ご本人の思いや意向を汲み取れるよう努めている。ご家族にも確認し、その思いも把握するようにしている。一人ひとりの思いに関する情報はカンファレンス等で検討共有し、実現に向けて努力している。	常に交流している1階のデイサービス利用者が入居することが多く、管理者等の職員は入居する方を良く知っている。入居後は利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望について、本人や家族から聞きとったり、日頃の生活の中での動きを見ながら、また、会話や得意なことを見て把握している。困難な方も日々触れ合う中で思いを把握し、本人本位に検討している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族、関係者などから、聴き取るようにしている。(生活歴・環境・暮らし方等)利用後も折にふれ、ご本人やご家族にどんな生活をしたいのか聴いている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活リズムを把握・理解すると共に、行動や小さな動作から感じ取り、本人の全体像を把握している。出来ることに着目した関わりに努めている。(センター方式導入)		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族の思いや意見を聞き、プランに反映するようにしている。計画作成担当者が中心になり、本人や家族の意向をまとめ、カンファレンスにて協議し、利用者本位の介護計画を作成している。(評価会議は本人や家族も出席している。	センター方式を活用して、本人や家族との関わりの中での思いや情報をしっかり受け取っている。その人の生き方・暮らしを支援するという視点を持って職員間、あるいは参加されている家族・本人で意見を出し合い、介護計画を作成している。状態急変後、退院後は介護計画の変更を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルがあり、食事、水分量、排泄など身体状況および日々の暮らしの様子や本人の言葉気づきなどを記録している。職員は、勤務開始前に確認して申し送りを聞くようにしている。また、個別の記録を基に介護計画の見直し評価をしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて外出や外泊の送迎、利用者の希望する場所への外出支援など対応している。医療連携体制を活かした協力医院との連携。かかりつけ医への受診介助、入院先の医療関係者との連携等行っている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公民館の活動に参加したり、ボランティア活動を通じて交流を深めている。今まで参加していた活動を継続することは、楽しみとなっている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時にかかりつけ医の継続や協力医療機関の利用について相談し、本人、家族の意向に沿って支援している。在宅医療機関は、定期往診、緊急時の対応はいつでも可能である。かかりつけ医への受診は、ご家族と協力し通院介助をしている。	利用者で一人、入居前のかかりつけ医で受診している。その他の利用者は、毎月往診している協力医を利用している。管理者が看護師であり、在宅医療をする医師とは利用者の日々の心身の状態をもとに意思疎通ができており、効果的な受診ができています。歯科・皮膚科・眼科(往診)とも連携しており、受診結果は家族に報告している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員(管理者)を配置しており、常に利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしている。看護職員とは24時間いつでも連絡が取れる体制になっている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供し、面会は頻繁に行っている。入院先の医療関係者と症状の確認を行ったり、カンファレンスに参加するなど、早期退院に向けた支援をしている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人の気持ちを大切にしつつ、家族と話し合い、安心した終末期を過ごしていただけるよう取り組んでいる。状況の変化に伴い、その都度家族、主治医、事業所を交えて協議し、方針を共有している。チームで連携を図りながら支援している。	入居契約時に利用者、家族と重度化や終末期について話し合いを持ち、家族の意向を確認している。これまでもターミナルケアを行っている。職員をはじめ医療との連携や対応について話し合い、利用者、家族が安心して過ごせるよう関係者間での方針を共有している。尊厳ある人生の最後を支えるように努めており、亡くなった時は、入居者みなさんでお見送りをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルに沿って対応。日頃から状態観察を行い異常時の見極め、些細なことでも、管理者に報告し指示を得るようにしている。定期的な勉強会にてマニュアルの徹底、事故発生時の対応など学ぶようにしている。救急講習等に参加。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害マニュアルに沿って対応。定期的な勉強会により、マニュアルの周知徹底に努めている。年2回の消防訓練実施。消防署の指導を踏まえて自主訓練を行っている。地域の方に災害時の援助に関して協力を得られるように働きかけている。(毎月15日に防災点検実施)	今年2月スプリンクラー・自動火災報知機を設置している。年2回、利用者と一緒に避難訓練を行い、その内1回は消防署立ち会いのもと行っている。また、夜間想定訓練も行っている。職員間で避難経路・避難場所の周知も徹底しているが地域からの参加は得られておらず、今後、地域の方の協力を得て、訓練をする予定である。災害に備えた備蓄をしている。	事業所だけの訓練でなく、地域の方たちの参加・協力を得ながら定期的実施されることが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の話を傾聴し、思いを否定しない対応とさりげない対応を心がけている。日々のケア、関わり方を振り返り、利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応に努めている。	職員は、馴染みの関係の中で丁寧な言葉遣いはもちろん、声の大きさにも気を配っている。失禁した場合や排泄の誘導の際にも周りの方に悟られないように言葉を選んで声をかける等、誇りやプライバシーを損ねない対応を行っている。利用者に関するファイルの管理は、ドアはないものの、職員しか入れないスペースに保管されている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で本人が意思決定が出来るような声かけをしながら、決定できるように支援している。言葉で十分に意思表示できない場合であっても、表情を読みとったりして、その人らしい希望を引き出せるよう心がけている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームとしての流れはあるが、その時の気持ちを重視して無理強いせず見守っている。一人ひとりの状態や思いに配慮しながら柔軟に対応している。(起床時間、食事時間、入浴時間など本人のペースに合わせて。)		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の意向や好みで選べるように援助している。自ら化粧をしている方もいて、出来る限り長く続けられるよう支援している。TPOに応じた装いをしてもらえるように心がけている。行きつけの美容室、毛染めなどその方の希望にあわせて対応している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒にテーブルを囲み会話をしながらゆっくりと食事が出来るように取り組んでいる。利用者のリクエストを献立に入れるなど食事を楽しめるようにしている。介助が必要な方は食べやすい形態にしその方のペースで食べられるよう配慮している。好きなものを個別に提供したりしている。	食材提供事業者の献立と材料によってデザートサービスで作られたものを当事業所で盛り付けている。土・日は利用者の希望をもとに献立を作り、職員と利用者が一緒に買い物に出かけたり、好きな食材を選んだり、事業所の小さな菜園でみんなで育てた野菜を使ったりしている。職員は一緒にテーブルに着いて同じ物を食べ、会話を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎回の食事量、水分摂取量の記録を行い、摂取量が少ない利用者へは、声掛けを行い促している。場合によっては高カロリー飲料で補食している。肥満や糖尿の方に対しては主食マンナン米に変更するなど対応している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その方の状態、習慣に合わせて、口腔ケアの声かけを行い、見守りや介助を行っている。清潔保持に対する意識を持って対応している。必要時、訪問歯科利用し対応している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表やその方の動作によってトイレ誘導を実施している。タイミングを見ながら声かけし、さりげなく誘導している。オムツの方も日中はトイレでの排泄を援助している。	排泄チェック表をつけ、その人のパターンを把握してトイレ誘導をしている。夜はリハビリパンツ利用の方も、日中は利用者の尊厳や羞恥心を考慮しながら失敗があっても自立に向けて紙パンツや布パンツにしている。おむつの方も1日に1回は必ずトイレに座るようにしている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食材や乳製品を取り入れている。一日1300mlを目標に水分補給に心がけている。散歩や家事活動など、体を動かす機会を作り自然排便を促すよう取り組んでいる。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	いつでも入浴できるようにしている。入浴の順番、時間、介助方法等、希望に応じて対応している。ゆったりと気持ちよく入浴できるよう配慮している。(一番風呂や長風呂の方など、その人のペースでゆっくりと入っており楽しみの一つとなっている。)	毎日入浴が可能であり、午後2時から6時の間でゆったりと入浴できるようにしている。利用者はその日の気分が入浴を拒否することもあり、好きな歌と一緒に歌ったり、声かけに工夫しているが、どうしても拒む場合は無理強いをしないようにしている。概ね次の日には入浴しており、一人ひとりの気持ちを大切に支援をしている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を通して、生活リズム作りを意識的に行っている。寝つけない方には、暖かい飲み物を勧めたり、ゆっくりと話を聞くなどの対応をしている。その方に応じて起床時間なども考慮している。ソファで仲良く休息している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の一覧表で確認できるようにしている。また、薬箱の薬札にも記入。薬の目的、用法などある程度理解できている。誤薬や飲み忘れがないように毎回目付と名前を確認している。本人の状況により医療受診につなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の関わりの中で、利用者一人ひとりの楽しみや得意なことを把握し、働きかけている。役割や出番を見出す場面を作るように支援している。(家事活動、制作活動、歌、デイ参加、散歩、買い物、外出等)		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望や楽しみごとに合わせて、外出できる機会をできるだけ作っている。美容室やご家族との外出等、その時々状況に合わせて支援している。季節行事(花見等)野球観戦や夕食、ドライブ、日々の散歩、買い物等、希望に沿って実施している。	常日ごろ、住宅地のひとブロックを散歩している。食材や仏壇のお花の購入、月1回の美容院通い、コンビニへの買い物、公園等のお出かけを利用者一人、あるいは職員と一緒に支援をしている。また、ヤフードームの観戦、観劇、夕食等の外出時も積極的に送迎の支援をして、利用者と職員と一緒に楽しんでいる。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布からの支払いを実施している。スタッフと共に支払うなど、その方に合わせた支援をしている。ひとりで買い物に(近くのコンビニ)に行っている人もいる。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人の方とのつながりを継続してもらうために電話や手紙の通信を支援している。家族に会いたいなどの発言があるときには電話で話して貰っている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	狭いリビングに普通の家庭にあるような一般的な家具を置いている。自由に使ったり、思い思いに過ごせる環境作りに努めている。玄関や壁には季節感を取り入れた飾りつけに心がけ、居心地よく過ごせるように取り組んでいる。	玄関には、季節の花がプランターに植えられ、各ユニット入り口にも和洋取り入れた装飾がされ、あたたかな雰囲気があった。リビングには、ソファテーブルがあり、常にお互いの顔が見える団欒の場となっている。窓からは、柔らかい自然光が入り、適度な明るさを保ち、過剰な音もなく、落ち着いた空間となっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはテーブルとソファを配置。狭いがいつも皆が集まって、会話している。仲のよい方同士でどちらかの居室で過ごしたりと、自由に過ごすことが出来る雰囲気がある。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や鏡台、仏壇など持ち込まれていて馴染みの物品が置かれている。使い慣れたものや思い出の品物もあり、安心して居心地よく過ごせるような居室作りを工夫している	寝具、タンス、仏壇、鏡台、椅子等が持ち込まれている。また、家族の写真や利用者自身が書いた書道、ファンである力士の大きな写真等がそれぞれ飾られてその人らしい落ち着いた居室となっていた。居室にポータブルトイレがあったが、それとわからないように何気なく大きな布でカバーされていた。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下や浴室などに手すりを設置している。トイレ内には可動式の手すりがありその人に合わせて利用している。「何が不便であるか。」「どうしたら安全に過ごせるか。」等、確認し状況に合わせた環境整備の工夫に取り組んでいる。		